

# 滋賀県道路公社中期経営計画

令和 6 年度～令和 9 年度  
( 2024 年度～ 2027 年度)

令和 6 年 3 月

滋 賀 県 道 路 公 社

# 目 次

1. はじめに	1
2. 会社の概況	1
3. 経営の現状	4
4. 現計画の目標と達成状況	6
5. 課題と取組み	6
6. 目標値の設定	10

## 1. はじめに

滋賀県道路公社は昭和 47 年に設立され、琵琶湖大橋有料道路をはじめとする有料道路の建設および管理事業を行うことにより、幹線道路の整備を促進し交通の円滑化を図るなど、滋賀県道路整備計画の一翼を担うとともに、今日までに近江大橋有料道路ほか 4 路線の有料道路を無料開放し、県に引き継いできました。また、有料道路が社会経済の発展基盤として県民生活の向上や経済活動を支える役割を果たしてきたことから、今日では観光や日常生活にとって不可欠な施設として定着し、琵琶湖大橋有料道路では計画交通量に則した状況になっています。

さらに、交通渋滞区間の改善や質と耐久性に優れた道路整備を図るなど、利用者から、より「安全性」「利便性」「快適性」を重視した付加価値の高いサービスの提供が求められています。

こうした状況を踏まえ、今般、サービスの向上と健全経営の維持、強固な経営基盤の確立に向けて、令和 6 年度から令和 9 年度までを計画期間とする「中期経営計画」を策定し、主体的な経営に取り組んでいきます。

### (1) 基本理念

安全、安心、快適で環境に配慮した有料道路を整備することで、県民の福祉の向上と産業経済の発展に寄与します。

### (2) 経営方針

持続可能で強靱な道づくりを目指します。

- ① 安全・安心社会の実現：安全、安心、快適な道路を提供して、利便性の向上に努め利用促進を図ります。
- ② 経済性も重視した道路建設の推進：道路の建設だけに留まらず、維持・管理も含めたトータルコストを考慮した効率的な運営を図ります。
- ③ 環境の保全：生物多様性や地球温暖化への影響を考慮し、環境負荷の削減に寄与します。

### (3) 計画期間

4 年間（令和 6 年度から令和 9 年度）

## 2. 会社の概況

令和 6 年 3 月現在、当公社が管理している道路整備特別措置法に基づく営業路線は、「琵琶湖大橋有料道路」および「大津港駐車場」です。ただし、「大津港駐車場」については、令和 6 年 3 月末日をもって県に償還します。

このほか、守山市の J R 吉身跨線橋の高架下で月極駐車場を管理するとともに、琵琶湖大橋の西詰めにおいては、附帯事業として道路利用者の休憩所や売店・レストランと、県産農畜水産物の直売所を併設した道の駅「びわ湖大橋米プラザ」を管理しています。

【管理路線】

路線名等	延長・台数	建設費	料金徴収期間等
琵琶湖大橋有料道路	15.4km	49,280百万円	昭和39年 9月28日～令和16年10月22日
大津港駐車場	151台	1,500百万円	平成 9年 4月 1日～令和 6年 3月31日
吉身高架下駐車場	25台	2.8百万円	(平成12年10月 1日供用開始)

【附帯施設】

路線名等	延長・台数	建設費	料金徴収期間等
道の駅びわ湖大橋米プラザ	—	746百万円	(平成 8年10月 8日供用開始)

【表 1】 会社が管理している路線等の概要

当社は、有料道路などを借入金で建設し、供用後は利用者からの料金で建設費の償還と維持管理を行っています。今後も、良好な維持管理による安全で快適な有料道路の提供と、利用者ニーズに対応したサービスに努めるとともに、料金徴収期間内に建設費を確実に償還していくことが当社の責務となっています。

(1) 琵琶湖大橋有料道路

① 整備の目的と現状

本道路は滋賀県の湖東地域と湖西地域を連絡し、県勢の均衡の取れた発展と琵琶湖の観光開発を図るために建設され、昭和 39 年 9 月に供用開始以来、地域生活を支えるとともに、琵琶湖の観光、産業経済および文化の発展に重要な役割を担っています。

道路公社の管理区間は、栗東市林から大津市真野普門二丁目までの 2 路線(国道 477 号、県道守山栗東線)で 15.4km となっています。

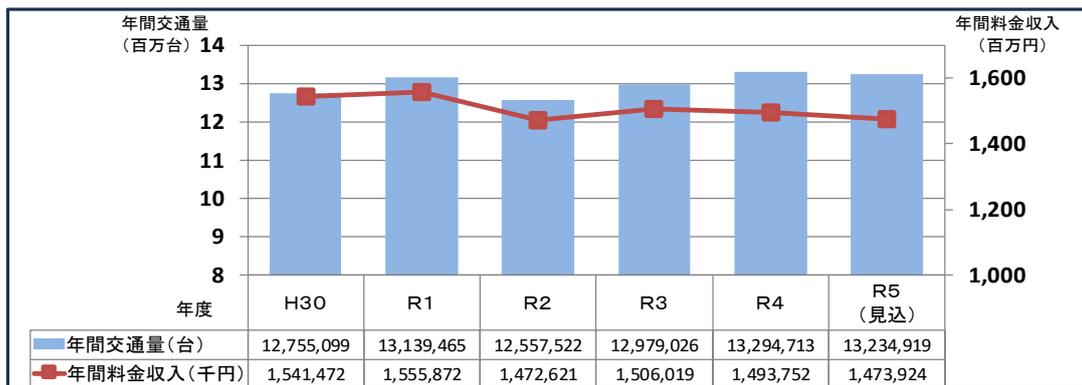
その中の、守山市水保町から大津市真野普門二丁目までの区間において、琵琶湖大橋有料道路第 6 期事業を実施しており、「琵琶湖大橋本体の耐震対策」、「琵琶湖大橋取付道(国道 477 号)の 4 車線拡幅」および「ETC の導入」に取り組んでいます。なお、ETC については、平成 31 年 2 月に運用を開始しています。

維持管理においては、舗装修繕計画に基づく舗装修繕や歩道パトロールによる歩道の修繕を行い、管理道路の安全性や快適性の確保を図っています。

橋梁については、滋賀県道路公社インフラ長寿命化計画に基づき、琵琶湖大橋(旧橋：昭和 39 年架橋、橋長 1,350m 新橋：平成 6 年架橋、橋長 1,400m)の床版補修工事や舗装修繕工事を実施しています。また、架設後 50 年が経過した吉身跨線橋の補修工事を実施するなど、施設の長寿命化も行っています。

## ② 利用状況

平成30年度から導入したETCシステムの運用に加え、琵琶湖大橋東詰交差点改良により混雑時間の短縮効果が表れ、利便性の向上が図られました。また、平成28年度の料金改定（値下げ）やETC利用の促進のために導入したETC割引もあって、毎年度の通行量は計画交通量に則したものになっています。また、令和2～3年度にかけては、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、通行量が一時的に落ち込んだものの、令和4年度には回復しました。



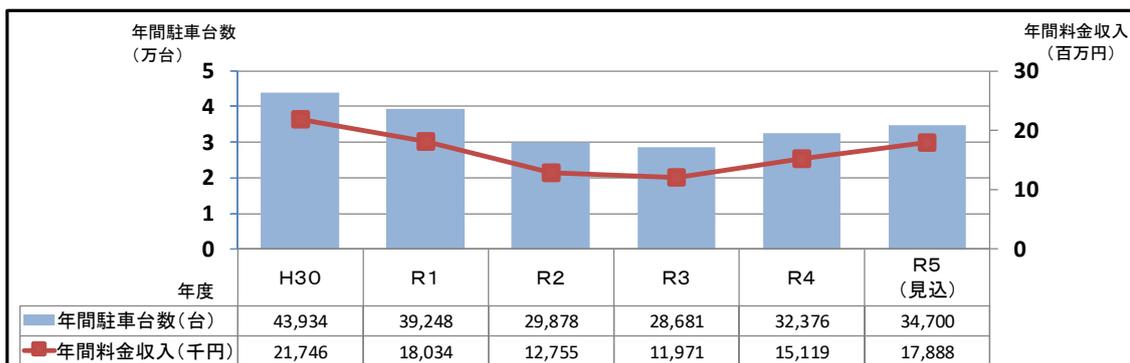
【 図 1 】 琵琶湖大橋有料道路の年間交通量と料金収入の状況

## (2) 大津港駐車場

大津港駐車場については、経費面、実行性、維持管理などを総合的に判断し、県（港湾管理者）に代わり当公社で建設することとなり、「大津市駐車場整備基本計画書（平成3年3月大津市策定）」を基に、平成7年当時の駐車場不足の状況、大津港改修整備および市街地再開発計画の動向を踏まえた事業計画により整備を行いました。

しかし、その後、周辺に他の駐車場が整備されたことや、市街地再開発事業が頓挫したこともあって、浜大津周辺の駐車場の需給状況が変化し供給過多になる中、1日上限料金の設定、広告媒体を活用した広報による継続的な利用促進を図りましたが、駐車台数と料金収入は開業時の収支計画を大幅に下回る状況が続きました。

このため、当初の令和8年度末での償還計画を3年間前倒しして、必要な修繕を行った上で令和5年度末での早期償還をすることとし、令和6年3月31日に県に引き継ぐこととしています。



【 図 2 】 大津港駐車場の年間駐車台数と料金収入の状況

### (3) 附帯施設 道の駅びわ湖大橋米プラザ

休憩所機能だけに留まらず、イベントの開催などを積極的に行い、附帯施設利用者や地域住民へのサービス提供の向上に努めています。その結果、平成 29 年度には年間利用者数が 58 万人を超え、過去最高を記録しました。その後、令和 2～3 年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響からピーク時の 70%程度まで落ち込みましたが、令和 4 年度には 85%近くまで回復しています。なお、建物の点検調査の結果、修繕を行う必要が生じている箇所があります。

### (4) 吉身高架下駐車場

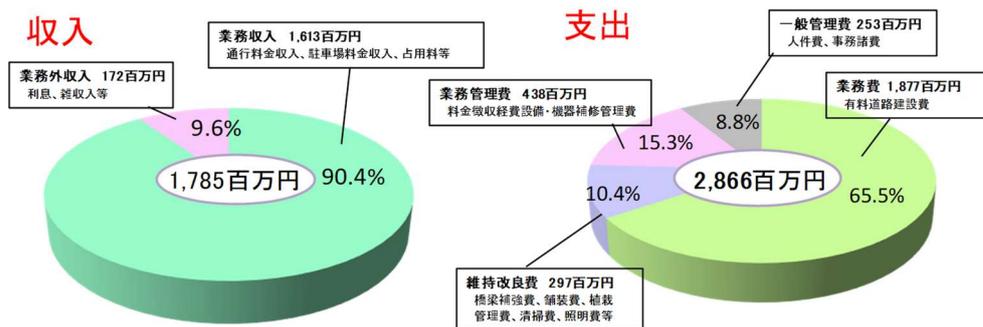
駐車場は、吉身高架下側道における違法駐車対策および通勤通学時間帯の交通事故防止を目的に設置しており、引き続き地域の交通安全、生活環境の改善など住民福祉の増進を図ります。

## 3. 経営の現状

### (1) 収支の現状

令和 5 年度の決算見込みの収入の総額は約 17 億円であり、そのほとんどが料金収入となっています。

一方、支出については、総額 30 億円の約 66%を橋梁耐震補強や道路拡幅といった琵琶湖大橋有料道路第 6 期事業の推進に充てており、残る約 34%は、安全・安心・快適な通行を確保するために必要な道路の改築および維持管理経費に充てています。



【 図 3 】 収支の状況 (令和 5 年度決算見込み)

※収支差額については、建設事業費の一部として、公社資産で賄います。  
 ※令和 6 年 2 月末現在の決算見込み額で作成しています。  
 ※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。  
 ※端数処理の関係上、合計が合わないことがあります。

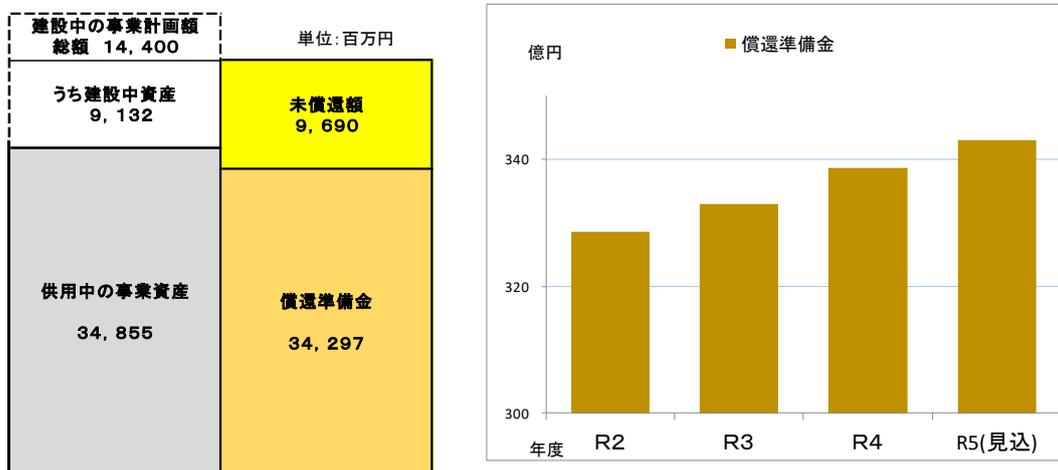
## (2) 事業資産と償還の状況

令和 5 年度の琵琶湖大橋有料道路の決算見込みの事業資産額は約 440 億円 (建設中の 91 億円を含む) となっています。

一方、償還の状況を示す償還準備金 (\*1) が約 343 億円で、未償還額が約 97 億円となっていますが、償還率 (\*2) は約 98% であり計画どおり償還できています。

\* 1 各年度に借入金返済に充てた金額の累計額

\* 2 事業資産額に対する償還準備金の比率



【 図 4 】 事業資産と償還準備金の状況 (令和 5 年度決算見込み)

※令和 6 年 2 月末現在の決算見込み額で作成しています。  
 ※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。  
 ※端数処理の関係上、合計が合わないことがあります。

#### 4. 現計画の目標と達成状況

国道 477 号の天津側の 4 車線化については、令和 6 年度早々に完了する見通しです。

守山側の 4 車線化については、令和 5 年度に土地所有者の 80%完了の目標としていましたが、営業店舗や集合住宅が多く進捗に困難な要素があり、43%完了に留まりました。

耐震対策については、環境などへの影響を小さくするため工法見直しを行い、関係機関との協議を継続してきましたが、工事着手には至りませんでした。

項目	指標	目標値		達成度	備考
		目標年度	目標達成度	R 5 時点達成度	
<琵琶湖大橋有料道路>					
① 国道 477 号の 4 車線化 ・ 天津側	事業進捗	R 5	工事完了	4 車線化概成	R6.7 工事完了
	事業進捗	R 5	土地所有者の 80%完了	土地所有者の 43%完了	
② 琵琶湖大橋基礎部 耐震対策	事業進捗	R 2 R 5	工事着手 工事完了	設計完了	

#### 5. 課題と取組み

当社の基本理念、経営方針を踏まえ、琵琶湖大橋有料道路第 6 期事業の成果を一日でも早く利用者に提供できるようにすることを重点的な課題としてとらえ、以下の項目の達成に取り組めます。

##### (1) 琵琶湖大橋有料道路第 6 期事業の着実な実施

平成 26 年度に当社の設立団体である滋賀県は、経営状況が良好な琵琶湖大橋有料道路のあり方について「琵琶湖大橋有料道路のあり方に関する研究会」を設け、検討を重ねました。この研究会の検討の結果、国との協議結果および県財政状況を踏まえ、知事が滋賀県議会（平成 27 年 6 月定例会での提案説明）において、琵琶湖大橋有料道路の建設有料事業を継続するとの方針を示されました。

当会社では、新たに追加する事業の計画を県や国とも協議を重ねた上で策定し、この内容を盛り込んだ建設有料事業の計画変更について、平成 28 年 1 月 20 日に近畿地方整備局長から許可を受け、その後令和 4 年 1 月 24 日に変更許可を受けました。

第 6 期事業の概要は、次のとおりです。

○事業費 144 億円

○工事期間 平成 28 年 3 月 1 日 ～ 令和 16 年 9 月 30 日

○事業内容

### ① 実施計画

実施する建設工事は、琵琶湖大橋本体の耐震対策、琵琶湖大橋を挟んで、国道 477 号の天津側は真野ICまでの 1.9 km、守山側は水保町中野交差点までの 1 km の 4 車線化を行います。

なお、通行車両の利便性の向上を目指した、ETCの導入については平成 31 年 2 月に運用を開始しています。

#### ◆ 琵琶湖大橋本体の耐震対策

琵琶湖大橋有料道路は管理区間のほぼ全線が緊急輸送道路に指定され、災害直後から避難路、救助、物資輸送などの応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき道路として重要な機能を担っています。とりわけ琵琶湖大橋が大規模地震に見舞われ長期間通行不能となった場合には、社会的影響が非常に大きいことから、耐震性能を確保する必要があります。

琵琶湖大橋の耐震対策は、これまでに旧橋・新橋の落橋防止システム設置、旧橋上部工・下部工（基礎部除く）、新橋下部工（基礎部除く）の補強を行ってきました。今回、新たに琵琶湖の環境に影響が少ない工法を採用し、橋梁基礎部の補強と上部工からのエネルギー伝達の減少を目的とする制震パネルの設置を行い、慎重に工事を進めています。

#### ◆ 国道 477 号の 4 車線化

琵琶湖大橋有料道路は、昭和 39 年 9 月に供用開始しましたが、その後の交通量の増加に伴う交通混雑を緩和することを目的に、平成元年から琵琶湖大橋の新橋（平成 6 年架橋）を含む約 3 km の 4 車線化に着手し、平成 6 年 7 月から供用しました。

しかし、その後においても、国道や周辺道路の整備に伴い交通量がさらに増加し、一部の区間においては、慢性的に交通混雑が発生しました。

このため、平成 28 年度から国道 477 号の琵琶湖大橋交差点から国道 161 号（湖西道路）真野ICまでの 1.9 km と、水保町中野交差点から琵琶湖大橋東詰交差点までの 1 km の 4 車線拡幅を行ってきました。

##### ・天津側（琵琶湖大橋交差点～真野IC）

本線車道部については、令和 6 年度早々に完了する見通しです。なお、令和 7 年度末を目標に仮橋の撤去などを進めます。

##### ・守山側

多くの営業店舗や集合住宅があり用地買収に時間を要することから、粘り強く交渉を行い、令和 8 年度までに用地買収を完了し、工事進捗を図ります。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
琵琶湖大橋耐震対策	準備期間		耐震工事		
国道477号 4車線化 (大津側)	舗装工事	供用開始			
		仮橋撤去等工事			
国道477号 4車線化 (守山側)	用地買収				
	都市計画変更	事業認定準備・申請・収用・代執行			
		工事			

【 表 2 】 中期計画期間内の事業実施計画

◆ ETC の導入

通行車両の利便性の向上や渋滞時間の短縮、併せて環境への負荷削減を目指し、ETC の導入を行い、平成 31 年 2 月から運用を開始しました。

② 償還準備金の確保

令和 6 年度から令和 9 年度においては、琵琶湖大橋の耐震対策工事、旧橋の塗装塗り替えなど規模の大きな工事を予定しており、期間中の償還準備金を着実に確保するため、コスト縮減の推進や効率的な施工に努めます。

(2) 安全・安心・快適な道づくり

琵琶湖大橋東詰交差点について、ETC 導入と交差点改良工事により朝夕の通勤時間帯の長時間の渋滞は減少しつつありますが、必要に応じて、関係機関と協議し対策案の検討に取り組めます。

交差点や通学路、園児の散歩経路など、歩行者自転車の事故発生の恐れがある箇所について、定期的に関係機関と調整し安全対策を進めます。

道の駅は休憩所としての機能に加え、情報発信や地域連携など多くの役割を果たしており、「道の駅」相互の連絡を図り、道の駅の利便性向上や質的向上に努めます。

(3) 計画的な維持管理

道路公社が管理する施設の維持管理は、平成 28 年度に策定した「滋賀県道路公社インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づく個別施設ごとの長寿命化計画により、橋桁の塗装塗り替えや伸縮装置取り替えなど計画的に修繕を実施しています。

管理している橋梁は 44 橋あり、うち 4 橋は供用後 50 年を超えており、経年劣化による損傷が顕在化しています。また、令和 5 年 11 月には、琵琶湖大橋旧橋の桁端部よりコンクリート片が剥落する事象が発生しました。

このため、従来の通常点検や5年に1回の法定点検、その中間年での打音点検に加えて、年1回以上のドローンや船舶による目視点検など点検頻度を高め管理を行います。

取付道路部も含めた路面については、舗装修繕計画に基づく計画的な修繕や日常のパトロールにより現地の状況に応じた補修を行い、快適性・安全性の確保に努めます。

また、道路メンテナンス会議の場を活用し、周辺自治体など他道路管理者との情報収集や意見交換を行い技術力の向上を図っていきます。

道の駅びわ湖大橋米プラザも供用後約30年になろうとしているため、維持点検や個別の劣化診断の結果などを勘案し、適切な設備更新に努めます。

#### **(4) 地域との連携強化**

渋滞対策や道路交通活性化といった、地域の道路整備に関連する各種協議会に参画し、地域との連携を図ります。

琵琶湖大橋の緩やかなアーチを描くデザインは周辺の景観と調和し、橋上から琵琶湖を眺望することができます。また、新橋には、路面に設けた凹凸をタイヤが走行する時の振動でメロディを奏でるメロディロードが設置されました。令和5年度には、旧橋が戦後に建設された土木構造物で県内初の土木学会選奨土木遺産に認定されるなど、魅力ある橋梁として地域の観光資源にもなっています。

加えて、近年盛り上がりを見せる自転車による琵琶湖一周（ピワイチ）においてもサブルートに位置づけられており、地域の観光振興への取組みについて、道路管理者としても引き続き協力していきます。

#### **(5) 健全な公社経営**

##### **① 管理区間の見直しについて**

琵琶湖大橋の取付区間は、幹線道路からの利用者の誘導を図る目的で、有料道路事業で整備してきました。現在では当初の目的が達成され、その利用状況が大きく変化していることから、有料道路の適切な管理区間について、引き続き、関係機関と協議していきます。

##### **② 道の駅びわ湖大橋米プラザのあり方の検討について**

施設整備後30年近く経過し、老朽化した施設の設備更新をはじめ、さまざまな課題があります。このため道の駅びわ湖大橋米プラザのあり方や設備・施設の更新などの課題について、関係機関・団体とともに検討していきます。

##### **③ 服務規律の確保**

職場研修を継続的に実施して、高い倫理観をもって職責を果たせるよう役職員のコンプライアンス意識の徹底を図るとともに、情報セキュリティ意識の向上やセキュリティ事案発生時の適切な対処に関する理解の促進を図ります。

#### ④ 公社資産の適切な運用

公社資産の運用にあたっては、資金需要を的確に把握し、長短金利の推移を注視しながら、引き続き地方道路公社法を順守した安全かつ効率的な資金運用を図ります。

### 6. 目標値の設定

目標の達成度を測定するため、令和6年度から令和9年度にかけての目標値を下表のとおり設定します。

毎年度、設定した目標値の達成度を点検・評価し、決算時に公表しておりますが、今後とも同様に毎年度の公表を行い、事業の促進を図っていきます。

項 目	指 標	現 在	目 標 値		備 考
			目標年度	達成度	
<琵琶湖大橋有料道路> ① 琵琶湖大橋 耐震対策	事業完了	補償	R6	工事着手	本線はR6に 供用
			R8	工事完了	
	② 国道477号の4車線化 ・大津側 (仮橋撤去等の工事)	事業完了	工事	R8	
・守山側				事業完了	補償
			工事		